

あたらしいボード

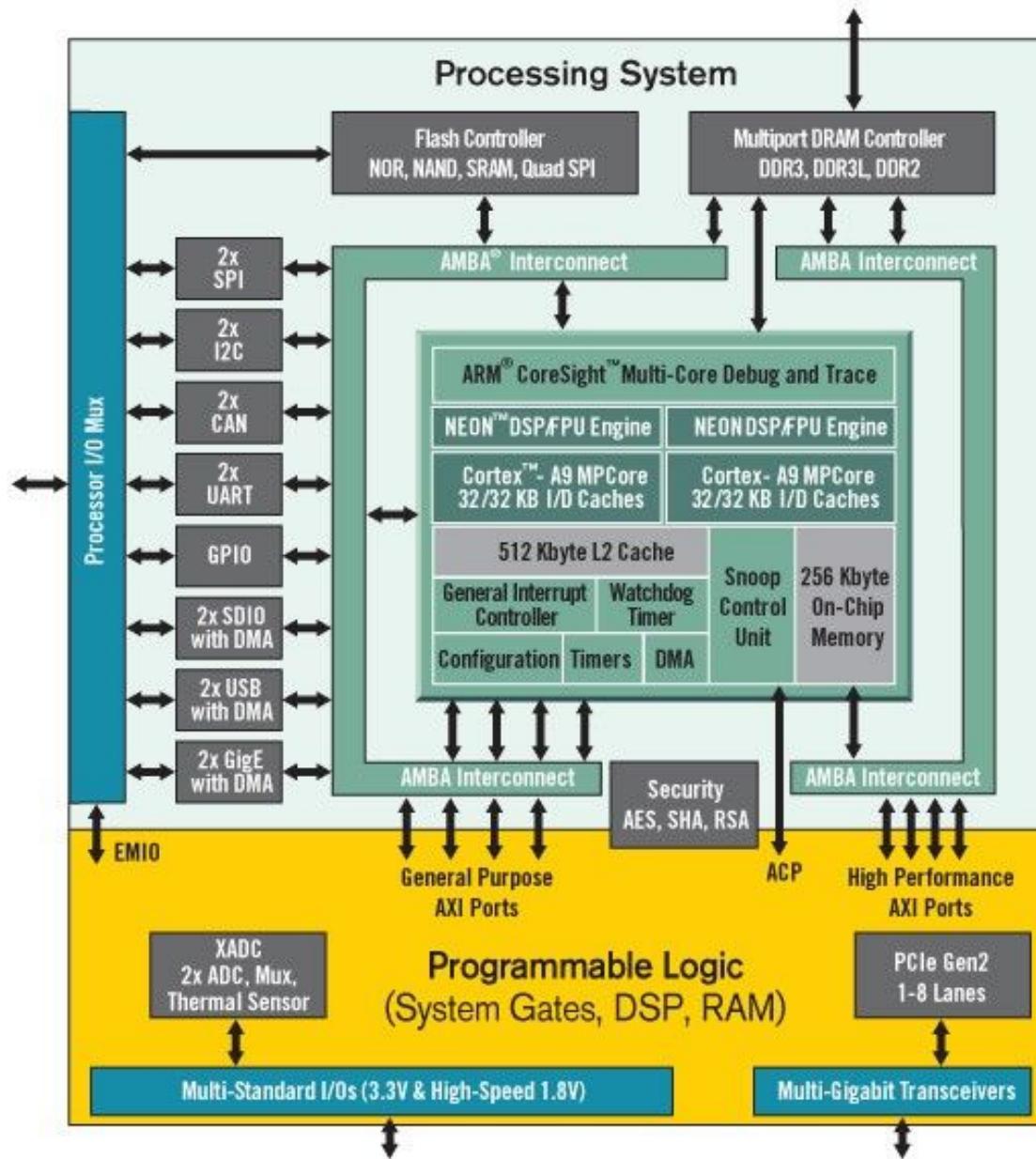
前のボードの反省点

- Linuxホストとの通信が大変
 - GbEをまともに制御するためにかなりロジックを食う
- 部品指定を一部ミスしたため自分で再実装した

解決策

- ARMのハードマクロが乗ったFPGAがある
 - 回路規模も結構大きい
 - XC6VHX565T (前ボード) 566,784 Logic cells
 - XC7Z100 (今回ターゲット) ~444,000 Logic cells

ブロック図



用途

- ARM部ではLinuxをマルチユーザーで動作可能
- ユーザロジック部に自前のメニーコアを実装
 - DDR3 CntrlrにAMBA経由でアクセスできる
- ネットワーク
 - GigEがARMから制御可能
 - メニーコアインタコネクトはユーザロジックのトランシーバを使う

評価ボード

- Xilinx Zynq-7000 All Programmable SoC
ZC702 Evaluation Kit 時価\$895

EK-Z7-ZC702-G



今回作るボードのブロック図

